

## 「社会科教育法の中の経済教育の1コマ」

—河原教材を使った講義報告—

京都女子大学非常勤講師 石原 純

### I はじめに

京都女子大学非常勤講師の石原純と申します。神戸市立の高校教員として、37年間、地理歴史科や公民科を担当していました。

現在は、大学で社会科教育法・公民科教育法を担当しています。社会科教員を目指す学生に、社会科の授業のすばらしさや面白さを伝えることを現在の目標としています。

高校教員時代から、経済教育ネットワークの資料を利用させていただいております。また、毎年の「先生のための「経済教室」」を楽しみにして参加しております。経済に関する最先端の状況や実践が、中学校、高校教員、大学教員、証券会社から提供されており大変勉強になります。

以下の社会科教育法公民分野の講義は、2021年10月11日に行なったものです。

### II 教科の指導法に求められるもの

教員免許状を与える大学の資格審査は年ごとに厳しくなっています。令和4年度(2022)教職課程を開設する全大学について、文部科学省は、2021年3月までに課程認定の申請を行い、12月に審査して認定するとしています。

担当する社会科教育法も文部科学省が作成した教職課程の質的保証をめざしたコアカリキュラムに合致したシラバスを申請しなければ教職課程は認定されません。

コアカリキュラムの中で、各教科の指導法で求められたのは、第一に学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する、第二に基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業の設計を行う方法を身に付けるという2つの目標です。目標の下位には到達目標がそれぞれ5つ、計10あります。10の到達目標を、講義の全15回授業のどこで達成するのか、エクセルの表に表して、シラバスと共に文部科学省に提出しなければなりませんでした。

たいへん息苦しい思いでした。したがって、経済分野に関する講義は時間的にせいぜいこの1回となります。その意味で、講義内容の選択が重要になります。

### III 講義の概要

社会科教員を目指す学生は、主に文学部や現代社会学部ですので、経済に対して苦手意識をもっています。経済的な概念が何であるのか、それをどのように授業に応用するのかを知りたいでしょう。

2021年の「先生のための「夏休み経済教室」」で行われた河原和之氏の講演内容を拝借して、講義をつぎのように組み立てました。1コマ90分間の講義です。

#### <講義の流れ>

- 1 「私たちと経済」の学習指導要領と教科書
- 2 分業と交換、希少性の概念(社会的な見方・考え方)

3 経済分野と「効率と公正」(社会的な見方・考え方)

4 「私たちと経済」の授業実践例(河原講演を活用)

5 課題

全体として、講義は、学習指導要領や教科書で求められていること(1)、経済分野の概念(2と3)、実際の授業への応用(4)の3部構成にしました。

1では、文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』の公民的分野の大項目 B「私たちと経済」の内容の概観をしたあと、東京書籍と帝国書院の教科書(どちらも2021年の新課程のもの)の目次を比較しました。

学習指導要領がもとめる、社会的な見方・考え方と知識と思考力・判断力・表現力等の内容が、いかに教科書の内容と関連づいているのかを学ぶためです。

2と3は、経済分野の社会的な見方・考え方の解説です。2では、教科書記述を用いて概念の解説を、3では、他の現代社会・政治・国際社会の分野とも関連をもつ「効率と公正」が経済分野にどのように関連するかを解説しました。

4では、河原和之先生の講演をとりあげました(この後にレジュメがあります)。

講演から、経済概念学習のポイントと、概念を活用した授業実践のポイントの2点をとりあげました。河原講演を見ていくと、経済概念をいかに具体的に授業するのか、社会問題に経済概念を活用する授業はどう展開されるのかがわかります。

5の課題では、「河原実践」から学んだことと、学習指導要領の「市場の働きと経済」の項目において生徒が追究したくなる問いをつくことを論述させました。

#### IV 河原実践の意義

河原和之先生は、授業のネタ研究会というグループを定期的に主催しています。小学校から高校、大学教員まで幅広い参加者が自由に発表し、議論するという自主的なグループです。2019年には第50回記念大会を開催、ミニネタ研という小グループの会は、2021年に第60回を数えます。

このように、若手からベテランまで、多くの先生方を惹きつける魅力は何でしょうか。

第一の魅力は、河原授業そのものの魅力です。「ネタ」という明日の授業に使える教材、「どの生徒にもわかる学力差のない授業づくり」を目指してだれもが参加できるクイズ、ペアワーク中心の授業方法の魅力があげられます。

第二の魅力は、授業づくりの方法の魅力です。自分で現場に行って取材する教材研究の方法や、幅広い読書量、多くの実践者とのネットワークから作り上げる授業づくりを知って、自分たちもやってみたいと思う教員は多いと思います。

第三の気づかれにくい魅力は、目標がぶれないことです。民主主義的な社会づくりむけて、中学生を社会に参加させ行動させようとする目標です。ネタ研の開始の河原先生の短いあいさつには、具体的な話題の中に形を変えてこの目標があらわれます。

大学での教員養成を担当していると、行政から教員を目指す学生への圧力(期待という名の管理願望)をひしひしと感じます。それはそれとして、実際に目の前の生徒を授業

に参加させるとはどんなことなのかを学生に伝えたい。そのために、河原実践は実践内容、授業づくり、教科目標を学生が学ぶ上で、豊かな水源になると思います。

## V 河原教材を使った大学での授業実践例

次に、Ⅲで紹介した講義の流れの4で行った、「私たちと経済」の授業実践例」のレジュメの部分を引用します。夏の教室の河原講演の内容をベースとした内容で、石原の補足、コメントが入っています。

### < 「私たちと経済」の授業実践例 >

前は、「現代社会と私たち」の単元で、「学ぶ意味のある社会科」の例を示しました。かなり抽象的な印象の例だったと思います。今回は、「学ぶ意味のある社会科」であることは、全く同じですが、切り口が全く違う具体的な授業実践の例を紹介します。

この授業をつくった人は、河原和之氏(かわはらかずゆき)、東大阪市立の公立中学校教員を30数年間努めた方。現在は、立命館大学などの非常勤講師。河原先生のテーマは、「どの生徒にもわかる学力差のない授業づくり」です。

授業の流れは以下の通りです。

(1)が、経済を教える上で必要な概念(社会的な見方・考え方)を河原先生だったらどう授業するのかという例を紹介します。

(2)が、フラワーロス解消 花屋さんが考えた「母の月」という授業で、コロナ禍の「花の月」からヒント得て、市場経済の基本とコロナ禍の社会問題を結びつけた授業例です。

(3)が、フィリピン人の母親が、子どもにちゃんと歯磨きした？とスマホ越しに育児をする姿から、外国人労働者問題をとりあげた授業例です。

3つとも、2021年8月13日(金)に、オンラインで行われた経済教育ネットワーク主催の「先生のための夏休み経済教室」で行われた実践提案「ポスト・コロナ時代のネタの集め方・生かし方」から、石原が再構成しました。

### (1) 経済概念(見方・考え方)を育成する授業のネタと事例

#### 1 わかりやすい「機会費用」の学習の事例

<概念獲得のための事例(習得)>

ア 東京へ行く、高速バス、それとも新幹線のどちらにしますか？

イ 駅でコーヒーが飲みたくなりました。コンビニだと100円、車内だと320円、どちらを購入しますか？

→機会費用とは、「あることを行なったことで見過ごした機会に発生した費用」

<グループで日常生活での他の事例を考える(活用)>

例 「USJに並ばなくても入場できるチケット」

例 「タクシーで混んだ道を走った場合にメーターが上がる」

例 「ホテルの予約のキャンセルは時期が延びるほど高い」

<難解な事例について考える(探究)>

「説明しよう」「スカイツリー入場料金が2700円のワケを機会費用から説明しよう」

(石原の補足:スカイツリーが0円だったら行列で時間がかかって仕方がない。5000円だったら行く人が少なくなりすぎる。2700円がちょうど良い金額だった。)

## 2 エベレスト登山から「市場」とは何かを考えよう

<エベレストでこんなこと?>

まず、地図で 8848 メートル、エベレストの場所を確認。

「クイズ」 エベレストで最近起きていることは何でしょう？(3択)

A 人の渋滞 B 滑落事故 C 登山結婚

「考えよう」なぜそうなるのでしょうか？

「クイズ」 2019 年の登山客は何人でしょう？(答え 380 人)

「クイズ」 エベレストの入山料はいくらでしょう？参考までに富士山は 1000 円

1万円 10万円 100万円 1000万円(答え 100万円、正確には 120万円)

<入山料から考える需要と供給、そして価格>

「考えよう」 入山料は安い？高い？

「グループ討議」 エベレストに入山料が決められている理由についてかんがえよう。

(石原の補足: 安すぎると登山者が集中、500 万円とすると登山者が来ない。ネパール政府がちょうどよい価格を決めている。価格はシグナル。)

(石原の補足: 登山者が、価格を見て、行く・行かないを決めている。市場で商品を買う・買わないと同様。)

「説明しよう」 さまざま商品やサービスが自由に売買される場を市場といいます。次の「市場」の意味について説明しよう。

労働市場 結婚市場 株式市場

(石原のコメント:労働市場では、労働力が商品となって取引されている。結婚市場は、年収や年齢が価格と同じようにシグナルの働きをしている。株式市場では、業績のよい会社の株がよりたくさん買われる。同じように、株価がシグナルの働きをしている。河原氏のやり方は、具体的な事例から、抽象概念を説明。生徒にその概念を使って、具体事例を説明させて、概念を使えるようにする方法をとっている。)

## 3 サルマネーから、貨幣の本質と役割を考える

<サルマネーを作ったのに…>

「発問」 学校で「サルマネー」という貨幣を作ったんだけど、必要でしょうか？

必要 必要なし

「考えよう」 1万円札は欲しいのに「サルマネー」はほしくないのはなぜ？

(石原の補足:貨幣として流通するには、信用とニーズが必要)

<「和同開珎」を鑄造したのに…>

奈良時代に「和同開珎」が作られました。でもこの貨幣が広がりませんでした。みなさんは農民で、重税に苦しみ、その日の生活もやっとです。

「考えよう」 コメか布か「和同開珎」のどれが欲しいですか？理由も含め考えましょう。

「考えよう」 「和同開珎」は、なぜ広まらなかったのでしょうか。

(石原の補足:中央集権体制であったが、「和同開珎」が全国で流通する信用がなかったし、商品経済が発達していなかったから。鎌倉・室町になり商品経済が発達すると貨幣が流通するようになった。)

<漢字から考える貨幣>

「ペアワーク」貝が貨幣として使われていたので、お金に関する漢字には「貝」という字が使われています。思いつくまま書きましょう。

解答例 贈 貴 貧 責 費 賄 負 貢 貯

「グループ討議」「貨」「財」「貸」に共通する字は、「貝」です。「化 ばける」「才 つみかさねる」「代 かわる」という部首から、貨幣の役割は何か考えてみましょう。

「化 ばける」「代 かわる」「才 つみかさねる」

「まとめ」以上のことから考え、貨幣の3つの役割は何でしょう。

交換手段(ばける) 価値の尺度(かわる) 価値の保存(つみかさねる)

#### 4 概念(見方・考え方)学習のポイント

- ・授業展開…日常生活から概念形成→概念から日常の分析→一般化
- ・教材…へっ！うそっ！という驚き、葛藤、矛盾、対立のある題材
- ・知識の習得…日常の世界から科学の世界へ、子どもの知りたいことと教師の教えたことの統一(単なる雑学はだめ。教科のねらい、知識を大切に)
- ・発問・課題…全ての生徒の学習意欲を喚起し、「一言いいたい」発問や課題。「貨幣ってなんですか？」ではなく「1万円札がほしいのにサルマネーがほしくないワケ」と問う。
- ・対話の方法…教師と生徒はテンポよく、small step で。生徒同士は「ペアワーク」「グループ討議」を併用

#### (2)実践事例の紹介:その1 フラワーロス解消 花屋さんが考えた「母の月」

認知度は低いですが、静かに広がった2020年5月の「母の月」。花の生産、流通、小売りなどの9団体がつくる日本花卉振興協議会の取り組みである。

「発問」2020年は、日本花卉振興協議会が「母の日」ではなく、「母の月」とした。なぜだろう？

(答え)3密回避とフラワーロス解消

例年、母の日直前は、生花店が混み合い、配送業者も多忙を極める。3密を避けるために、今年は5月1ヶ月を母の月にしようと提案された。下旬になると、バラやシャクナゲなどの旬の花も贈れるようにあった。

(石原のコメント:河原氏の知り合いで、花屋でアルバイトをしている人によると、「母の日」に売れ残ったカーネーションは、捨てられるのが一般的だそう。節分の恵方巻きと重なるエピソードである。これは、「3密」だけでなく、「フラワーロス」を回避する取り組みでもある。)

<コロナ禍、花の流通構造の激変>

「ペアワーク」コロナ禍の中、花の売れ行きは減ってきている。なぜだろう。

(答え)イベント(結婚式、卒業式など)の減少。需要が落ち込み、花が余る。

「クイズ」 結婚式は、2020年3月から9月に、何組が中止、または延期されたのか？

5万組 10万組 17万組 (答え 17万組)

「クイズ」 花の取引量は、2019年から2020年にかけて、何%減ったか？

約40% 約60% 約80% (答え 43.8%)

花の国内消費の約3割を占める法人向け需要は低迷のまま。もともと国内の花の産出額は、1998年の6300億円をピークに減り続け、2018年は3600億円。そこにコロナ禍が追い打ちをかけている。

「考えよう」 花の価格は、全国の市場価格の指標となる大田市場(おおたしじょう)で、4割前後下落している。なぜ花の価格が下落したの考えよう。

教科書の需要曲線・供給曲線を使い説明させる。

「発問」 年間1500億円の花が廃棄されています。フラワーロスとフードロスどちらが多いのでしょうか。

富山県南砺波市の花農家の人によると、5月にはベコニアやマリーゴールドの出荷が減り半数ほど切り取り処分した。

菊のシーズンの11月、和歌山県の菊農家では、売り先を探したにもかかわらず、数千本を廃棄した。

「考えよう」 価格の下落を止めフラワーロスを解消する方法はあるのか？

(石原のコメント:河原氏が取材に行った2020年11月14日、15日、奈良の興福寺で、「スマイルフラワーフェスティバル」があった。もともと新聞でフラワーロスのことを知ったが、このフェスティバルを知り、取材に行った。花農家の方から話を聞き、データをいただいたとのこと。)

<地産地消>

2万本の地元産の花で彩るこのイベントで、奈良県平群町のバラは、1千本を平年並みの価格で納めた。

参加者には、好みの「仏花」を5本プレゼント。

<好みの花を一本買うことで地球が元気に> ~参加・参画・行動・態度育成~

需給バランスの崩壊の中で、生産された花の30%が、だれの目に触れることなく農家から自らの手で廃棄処分される。収入が得られない中、栽培施設、電気代、燃料代も払えず、次の作付けのための資金もない。花の流通量を増やすために一本でもいいから好みの花を買い、花で飾られた家やオフィスで勉強や仕事をする。「花はもちろん、自分、生産農家、花屋さんも、そして地球も元気になれる！」新たな流通の流れをつくり、つなげる。私たちの日常的な”ちょっとした行動”が持続可能な社会をつくる。

(石原のコメント:これが河原氏の公民的分野の授業の目標。)

<この授業のポイント>

・導入

「母の日」ではなくて「母の月」という「えっ、どうして？」という発問が学ぶ意欲につながる。

・教材

ネタは一枚の新聞記事から。「スマイルフラワーフェスティバル」興福寺のイベントを知って、現地を取材、農家の方から話を聞く。

・知識・理解

教科書の単元「需要」「供給」「市場」「市場価格」を単なる語句や意味の理解だけでなく、“具体的事例”を通じて、相互の関連から考察する。

・思考・判断

「フラワーロス」問題をコロナ感染との関係で、多面的・多角的に考察する。

・参加・参画

一本の花を家に飾ろう

(3)実践事例の紹介その2 ちゃんと歯磨きした？

「発問」「ちゃんと歯磨きしたか？見せてみて」。奈良のアパートでフィリピンの人のKさんがスマホに話しかけている。Kさんは何をしているのだろう。

「ペアワーク」お母さんは33歳ですが、何のためにフィリピンから日本に来ているのでしょうか？

<介護施設で働くフィリピン技能実習生>

シングルマザーのKさんは、2人の子どもを母親に預けて2年前に来日し、奈良県の介護施設で働く。実家への電話は早朝か夜に1～2時間、ほぼ毎日かける。大切な「育児」の時間だ。

Kさんは、約70人が入所する特別養護老人ホームで食事や入浴の介助を担う。運営する奈良東病院グループは関西で約40施設を展開。外国人雇用を2006年に始め、今はフィリピンやベトナムなどから約30人が働く。

<なぜフィリピンは「出稼ぎ大国」になったのか>

Kさんは、経済連携協定(EPA)により日本にやってきた。EPAに基づく介護職は家族の帯同を認められていない。フィリピンを発つ日、3歳だった長男は泣き続けた。母親は「ママはあなたの生活のために、日本で働いているんだよ」と2人に言い聞かせた。

<日本の事情～日本で働く外国人～>

「グループ討議」日本で働く外国人は、2020年172万人になる。5年でほぼ倍増している。なぜこんなに増加しているのか。

<家族の帯同が認められていない制度>

EPAに基づく介護福祉士の候補生は、インドネシア、フィリピン、ベトナムから受け入れ、これまで約5500人が来日している。原則4年で、『介護福祉士』試験に合格すれば、子どもといっしょに日本で住み続けられる在留資格が得られる。

「グループ討議」「子どもとの来日」は認めるべきか？

(石原のコメント:河原氏が、大学生にこの教材を示して、グループ討議をした、その結果)

・認めるべき

「母親と離れて4年も生活するのはかわいそう」

「大切な子育ての時期に子どもと親が別々というのはひどい」

「旦那さんと4年も別居というのはよくない」

「お母さんがいないとしつけができない」

「子どもが勉強しないのではないか」

・認めるべきでない

「子どもがいっしょだと、逆にお母さんが働きにくいのでは」

「日本人でさえ、子どもの保育所がないのに、子どもが増えると困る」

「多くの外国の子どもが学校に入学すると言葉の壁などがありたいへん」

「子どもは生まれた国で過ごすほうがいいのでは」

「子育てでお金がかかり必要になる」

ある学生の感想より①

(略)家族と一緒に過ごせるというメリットしかないと思っていた。……日本の保育所問題に加え、来日した子どもが辛い環境に置かれること、母親により負担をかけてしまうなどの問題点があり、簡単に決められるような問題ではないと思った。…国だけでなく企業や会社がある人たちがよい環境で働けるような取り組みをすればよい(略)

ある学生の感想より②

(略)必要な2つの配慮。1つ目は、言葉の配慮である。介護施設で働く場合、施設利用者との信頼関係はとても重要である。……私たちが外国からきた労働者たちとコミュニケーションをとり、私たちの口から施設利用者へ人柄を伝えてあげるなどして、お互いに安心を与えることが大切だと思う。2つ目は、メンタル面での配慮である。家族と離れて異国にやってきた外国人にとって、寂しさや生活での不安があると思う。それを少しでも取り除いてあげる必要がある。(略)

<ウォームな感性とクールな知性>

社会問題学習は「貧困」「人や国の不平等」「平和と公正」などを扱うので「当事者性」「切実性」を伴う→ウォームな感性は不可欠。

事実、現実に対する「クールな知性」は、「思考力・判断力」を鍛える→価値判断から意思決定へ

「もやもや」感の残る授業→自分で調べよう→議論したい→行動化

<社会問題学習の留意点>

・教材や題材

「当事者性」「切実性」に留意しつつ「自分事」として考える教材や題材であること。

・課題設定

「他者との対話」の中で、認識が揺れ、「深い学び」へとつながる課題設定であること。

・注入ではなく、考察

イデオロギーの注入にならないよう多面的・多角的に考察すること。

思考実験と位置付け、思考力・判断力の育成を目標とすること。

学力差のない授業であること。

「誰ひとり取り残さない」というSDGsの観点から「学力差」のない授業を展開すること。

・参画型授業

自分たちのちょっとした行動が、地域、日本、地球の未来を変えるという「参画型」授業をイメージする必要がある。

<最後に～長崎からのメッセージ～>

長崎原爆資料館の入り口に「長崎からのメッセージ」が掲げられている。核兵器、環境問



題、新型コロナという三つを挙げ、それらに「立ち向かう」根っこは同じだと語りかける。

「自分が当事者だと自覚すること」

「人を思いやること」

「結末を想像すること」

「行動すること」

以上は、河原氏の講演会の報告のまとめである。

(石原のコメント)

河原授業の目標は、生徒に社会問題を自分の力で考えることができるようにすることである。

内容は、社会問題を自分ごととして考えることができる教材や題材を使って、背後にある社会的な見方・考え方を自分のものとさせる内容。

方法は、教室のだれひとり取り残さず学力差のない授業を目指して、生徒とのインタラクティブを重視する方法。発言させたり、挙手させて生徒を問題に取り込んだあと、ペアワークやグループ討議によって、ますます問題にコミットさせる。楽しいだけではなく、授業の根底には、社会的な見方・考え方といった概念の学習がある。

評価については、このプリントでは省略。河原氏は、テスト問題例として、「あなたの友人に高卒後プロ野球の選手になろうとする人がいます。でも、大学進学を選択肢もあります。あなたはどんなアドバイスをしますか？「機会費用」の観点から考えましょう」という例を出している。文章で答える、一種のパフォーマンス評価である。

(4)「私たちと経済」の授業づくりに参考になるサイト

この部分は省略

(5)課題

最後に、「河原実践」から学んだことと、学習指導要領の「市場の働きと経済」の項目において生徒が追究したくなる問いをつくることを論述させました。

VI おわりに

京都女子大学における、社会科教育法の中の経済教育の1コマを報告しました。

河原授業に対して、ある3回生の学生は、課題の中で、「河原先生の講演の内容については、私も実践してみたいと思った。この授業方法は、生徒と先生間、生徒同士で会話が生まれ、能動的に授業に参加し考えることができる。経済というと難しいというイメージが強いかもしれないが、日常生活のなかでの身近な経済活動を出発点に一般的・抽象的な概念へと発展させるという過程を通し、生徒の理解も深まると考える。「単なる雑学はだめ」と書かれていたが、教科のねらいを見据えて、どの事例を用いるのかを決める必要があり、生徒たちを授業の展開に引き込む導入にすることが求められる。」と述べていました。

この授業とは別の公民科教育法の公民科経済の講義では、河原講演会の内容とともに、「先生のための経済教室」での坂井豊貴教授の講演「社会や経済は複雑すぎて、経験や直

感だけで理解できる代物ではない」も使いました。経済概念が直感や経験を裏切るという話です。

この講義の課題として、河原・坂井両氏の感想と、経済教育ネットワーク HP に今年 9 月アップロードされたばかりの、「今使えるコロナ教材:授業のネタを28用意しました」から評価する授業を1つ選んで、評価する理由を書いてもらいました。

一番人気は、埜枝里子先生の「コロナと椅子取りゲーム」でした。埜先生は、坂井講義の指定質問者でしたので、不思議なつながりを感じました。

今後も、社会科教育法の中で、経済教育ネットワークの資料を活用していけるようにしたいと思います。